

研究と努力の成果

オランダの花き園芸

神奈川県園芸試験場
花き主任研究員

大 川 清

花とオランダの生活

国土の総面積がわが国の九州よりも小さく、人口が1,400万人のオランダの花き生産額は、日本の花き生産額に匹敵し、国民1人当りの花の消費額は15,000円(1977年の統計)で、日本の10倍である。北緯52°、冬期の日照時間が日本の太平洋岸の1/4という恵まれない条件下でどうしてこのように花の生産が盛んなのであろうか。

その答えはオランダにしばらく生活してみると、おのずと明らかになる。どの家庭にも、室内に20や30の鉢物が飾られ、セントラルヒーティングが普及しているため冬期室内は常に18~20℃に保たれているから、クロトンなどの高温性の鉢物も、充分楽しめる。花屋の店頭では切花はすべて束売りである。そして、価格は非常に安い。花は生活の必需品であるからである。

日本の場合、花の消費に占める家庭消費の割合は少なく、結婚式、パーティ、葬儀などの“仕事花”や“けいこ花”が中心である。したがって、切花、鉢物とも価格は極めて高い。

日本で手土産にさげていくのは、菓子か果物と相場がきまっているが、オランダでは、切花が鉢物である。食物を手土産にすることはまずない。この習慣は、第二次世界大戦後に広まったというが、現在ではすっかり定着している。

このように、花を大量消費するようになったのは、オランダの生活レベルの高さを抜きにしては、考えられない。労働者の平均給与は日本の1.8倍、食料費は日本のほぼ半分ですむのであるから、花を買うゆとりもおのずと出てくるのであろう。

日曜日の午前10時半すぎから正午まで、オランダ中に教会の鐘がひびきわたり、大都市の一部を除いて、町は死んだように静かになる。クリスチャンは教会にお祈りをささげに行き、無信仰の人々は、家で静かに読書に時を過す。もう大部以前から土曜日は学校、銀行、役所のすべてが休日となっていて、週休2日制が完全に定着している。国民の大部分は、夏2~3週間の休暇をとり、国外にバカンスに出かける。このような生活に、花はか

かせない。

以下に、オランダの花き生産の現状を報告することにした。

施設花き栽培の現状

施設花き栽培は、過去20年間に飛躍的に発展し、1981年の施設面積は約4,059haで、20年間に8.8倍も増加した。切花が82%、花壇苗を含めた鉢物が18%の割合であるが、ここ数年鉢物の伸びがいちじるしい。切花のほぼ100%、鉢物の60%が市場を通して販売されている。

表一 施設花き栽培面積の推移 (ha)

年度	切花	鉢物	合計
1960	388(87)	60(13)	448(100)
1965	770(86)	130(14)	900(200)
1970	1,445(88)	194(12)	1,639(366)
1975	2,608(85)	452(15)*	3,060(683)
1980	3,274(82)	700(18)	3,974(887)

* 1975年から鉢物は花壇面積を含む

全施設面積に占める花と野菜の割合は、1960年には花が11%、野菜が89%であったが、1978年には花43%、野菜57%になっている。施設での野菜栽培が横ばいであるのに対し、花きの施設栽培が、順調に増加してきたためである。この傾向は、その後も続いている。

種類別にみると、切花で栽培のもっとも多いのはバラで、次いでキク(施設での周年栽培)、カーネーション、フリージア、チューリップ、ガーベラ、ユリ、アンスリウム、切葉、ラン、アイリス、宿根カスミソウの順である。

この数年の動きをみると、大輪カーネーションとアンスリウム、切葉が減少傾向にあるが、その他は順調に増加しており、とくにガーベラの伸びが著しい。

施設で花きを栽培している生産者は、1974年には7,962人で、減少傾向にある。生産者はザウド=ホーランド州がもっとも多く約2,000人、次いでアールスマールを含

表一 切花と鉢物の種類別栽培面積の推移 (ha)

種 類	1978	1979	1980
1. パ ラ	688	723	765
2. キ ク (周年)	477	503	490
3. カーネーション	429	443	466
大 輪	(174)	(150)	(138)
スプレイ	(255)	(293)	(328)
4. フ リ ー ジ ア	349	361	366
5. ガ ー ベ ラ	128	176	229
6. ユ リ	115	137	137
7. アンスリウム	69	69	65
8. 切 葉	49	48	39
9. その他の切り花	234	285	375
10. 鉢物と花壇苗	610	636	700
鉢 物	(476)	(508)	(553)
花 壇 苗	(134)	(128)	(147)
11. そ の 他	327	334	253
合 計	3,475	3,715	3,974

むノールド=ホーランド州が1,700人で、この2州が72%を占めている。これは近年、産地が南部に移っているため、花き施設栽培面積の62%がザウド=ホーランド州に集中し、ノールド=ホーランド州が19%、その他の州が19%の割合となっている(図1)。

種類別の平均栽培面積は表3のとおりで、主要切花では、もっとも省力的なガーベラの経営規模がもっとも大きく、労力のかかる大輪カーネーションがもっとも小さい。いっぽう、露地での花き栽培面積は1,072ha、生産者数2,926人で、平均栽培面積は3,663㎡である。

1980年度の花きの総生産額は約2,500億円でこのうち、オランダ全市場での取り扱いは高は2,020億円で、国民1人当りの切花と鉢物の年間消費額は、前述したように約15,000円で、これはヨーロッパで最高であるが、花き生産の70%は西ドイツを中心に世界各国に輸出されている。

このように、オランダ産の切花、鉢物、苗物が大量に輸出できるのは、(1)、きわめて数多くの種類を生産している。(2)、年間平均して供給できる。(3)、品質がよい。(4)、価格が安い。(5)、輸送方法が確立していることなどによる。

実際、世界に先がけて新しい種類を導入、改良し、栽培法を確立して市場に送りだすことに大変な努力をはらっている。これは、近年、ガーベラ、アルストロメリア、ユリ、ブバルディア、宿根カスミンソウ、トリカブト、ユッカなど

が急激に増加しているのをみれば明らかである。

また、品質の向上、とくに水あげ、花もちをよくすることにも、精力的に取り組んでいる。種類別の切花保存剤の開発、種類および品種別の切り前の検討、水あげ、花もちのよい種類および品種の選定、貯蔵方法、包装方法など、品種保持のための研究が、国立花き試験場、スプレnger研究所、植物生理研究所などをはじめ、多くの研究機関で行われており、実用的な試験結果は、すみやかに普及に移されている。

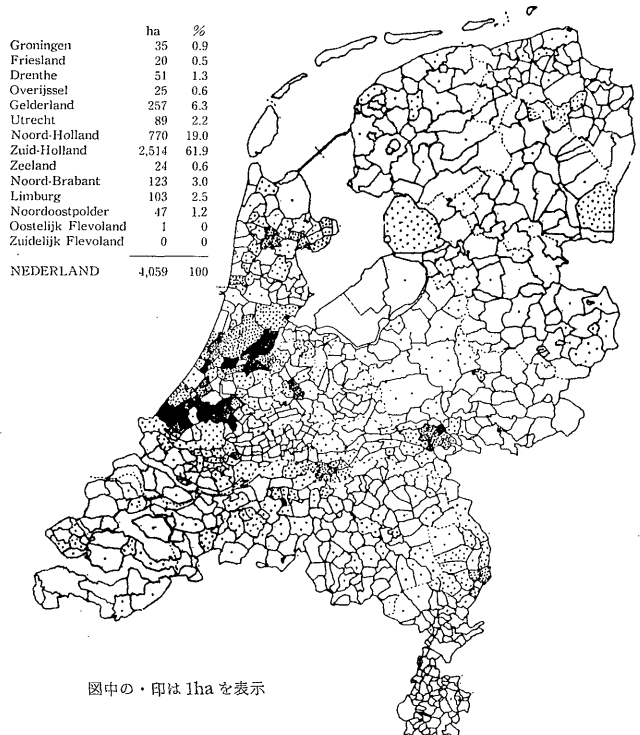
オランダがねらう市場？

現在、オランダがもっとも注目している輸出市場は、アメリカと日本である。アメリカに対しては、すでに3年前にオランダの花市場の連合組織VBNが、デトロイトに事務所を開設し、積極的に輸出をはじめており、1980年度の輸出額は30億円に達しているが、オランダからの輸送距離よりも、広いアメリカで花の販売網が確立されていないことがネックとなっている。

いっぽう、日本はオランダと比較して、国内での切り花、鉢物の生産者価格がきわめて高いため、ひじょうに有望な市場であると考えられているが、日本の植物防疫制度が障害となって伸び迷んでいる。

オランダの花き経営は人件費の上昇、燃料費の高騰、価格の低迷などで年々悪化しており、いっそうの「省

図一 地域花き生産施設面積(1981)



力、「省エネ」が求められている。まず、「省力」に対する最近の取り組みを紹介する。

切花と鉢物栽培における特徴

バラ切花栽培では、小型のローリーを通路を移動させて、両側を一度に収穫する方法により収穫労力を30%省力できることが明らかになっている。この方式では、ローリーに切花を置く際、品質によって2段階に選別することもでき、収穫だけでなく、選花の能率を高めるのにも役だっている。

キクでは「ハーベスト＝ライン」と呼ばれる方式が一般化しており、収穫された花は、ベルトコンベヤーで集められ、栽培室内でパッキングされている。

鉢物でも移動ベンチ（ローリングベンチ）方式が、鉢物の種類に応じて取り入れられており、小型で価格の安い鉢植え機の普及とともに、鉢物生産の省力化に大きく貢献している。鉢物生産では、出荷労力をいかに軽減させるかが、大きな課題となっている。

このような装置や施設による省力と併行して、最近、切花はもちろん鉢物でも、「少品目多量生産」方式によって省力化をはかる傾向が強くなっている。市場の規模が大きく、生産者の数が多いので、この方式のほうが、合理的なのであろう。しかし、現時点ではトルコ、モロッコ、スペインなどの発展途上国からの“外国人労働者”に大きく依存しているのが現状である。

省エネルギー対策は、施設と装置面からだけでなく、品種、作型、栽培法の面から、切花1本当たり、鉢物1鉢当たりの燃料費を軽減させようとする試みが、多くなされているのが特徴で、オムブラゾール（遮光兼省エネ装置）、二重ガラス、二重硬質板、カーテン、ローリングベンチ、ロックウール栽培工場の廃き熱、発電所の排水利用などが特に注目される。

オランダの花き生産で最も特徴的なことは、“受益者負担”が徹底していることで、実際の研究をしている国立花き試験場、球根研究所、温室作物研究所などの、人

表-3 花きの種類別栽培面積の推移 (1978)

種 類	平均栽培面積
ガ ベ ラ	6,600 (㎡)
バ ラ	5,850
ア シ ス リ ウ ム	4,560
切 葉	4,500
キ ク	4,310
スプレイカーネーション	3,680
フ リ ー ジ ア	3,600
鉢 物	2,500
大輪カーネーション	2,340
花 壇 苗	1,260

件費を含めたすべての運営費の50%を、生産者が負担していることである。これは、市場の手数料から還元されている。市場の手数料5.65%のうち、5.2%は市場の運営費に使われるが、0.45%は花きの研究、宣伝にまわされるのである。買受人も購入金額の0.35%を同様の目的のために徴収される。

結果的に、市場取り扱い高の0.8%が、研究宣伝などに振りむけられるようになっている。1980年度のオランダ全市場の取り扱い高はすでに述べたように2,020億であったから、これの0.8%にあたる16億円が花きの研究宣伝に使われた。このうち、国立花き試験場に2億320万円、ナールドワイクの温室作物試験場に7,890万円がまわされた。

アールスメール中央卸売市場

